

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
109	漏洩	2	7	3	神奈川県	なし	450号地の屋外タンク貯蔵所の浮き屋根上に、油(ナフサ)が約10リットルにじみ出ているもの。
110	漏洩	2	7	4	福島県	なし	重油輸送船から屋外貯蔵タンク(9万5千キロリットル)へ重油移送作業中、定時の巡回を行っていた事業所員が、同タンクの直近に取り付けられている電磁弁から重油が漏えいし防油堤内に溜まっている状況を発見したもの。事業所員は移送配管の途中にあるバルブを閉止し、消防が現場に到着した同日7時54分には漏えいが停止しており、また、事業所員は防油堤内に溜まった重油を吸着マットにより回収中であった。防油堤内に溜まった重油は、同日13時00分頃までに回収を完了した。なお、漏えい量は約200リットルと推定される。また、海上への流出はなかった。
111	爆発	2	7	6	福島県	なし	200リットルドラム缶にスチレンモノマー(合成樹脂原料)を主成分とした廃液を入れ、危険物製造所内に2缶貯蔵していたところ、そのうち1缶の内圧が何らかの原因で上昇し、爆発したもの。なお、爆発したドラム缶には約50リットルの廃液が入っていた。また、爆発による飛散物は危険物製造所内にとどまった。
112	漏洩	2	7	7	山口県	なし	配管の解体作業中、在液中の配管を解体したためN-メチル-2-ピロリドン(危険物第4類第3石油類)が10リットル程度漏えいした。14:52漏えい停止。系外への流出はなし。
113	漏洩	2	7	8	山口県	なし	排水処理設備の中和用塩酸貯蔵タンクの吐出ポンプの背圧弁付近から塩酸が漏えい。漏えいした塩酸は、ポンプ周囲に飛散し、現在、中和、回収作業中。周囲には、排水溝があるため、事業所外への流出はない。漏えい量は、10~20L程度と推定。
114	漏洩	2	7	8	千葉県	なし	濃硫酸タンクから濃硫酸が漏洩したもの。漏洩継続中。タンクからタンクローリーへ濃硫酸を移送中。
115	火災	2	7	9	山口県	なし	一酸化炭素と水素の混合ガスの余剰残ガスを処理するフレアスタック行き配管の途中から何らかの原因で出火したもの。(現時点では配管途中に穴が空いたものと推定)供給元を遮断した後、屋外消火栓により消火を実施し、00:19鎮火を確認。
116	漏洩	2	7	9	神奈川県	なし	ローリー充填所において、MMA(メタクリル酸メチル)を充填中に、約30リットルオーバーフローしたもの。同日10:44公設消防隊がガス検知器で測定するも検知せず。同日10:46事業所職員により側溝内の油回収開始。同日11:13事業所職員が側溝内の油回収し、中和剤により処置、その後公設消防隊がガス検知器で測定するもガス検知せず。同日11:13処置完了。
117	その他	2	7	9	千葉県	中等症1名 軽症2名	圧力釜の取出し口から製品を取り出そうとしたところ、釜に圧力がかかっており粉状の薬品が吹き出し、被ってしまったもの。
118	漏洩	2	7	9	千葉県	なし	プロピレンオキサイト製造施設のエアークンプレッサー建屋から潤滑油が少量(漏洩量は、現在確認中。)が漏洩し、排水溝を経由して海上へ少量流出した。当該建屋からの漏洩停止措置完了。現在、漏洩は無い。海上にオイルフェンス及び油吸着マットを敷設措置済。海上に敷設した油吸着マットは、明日(9月10日)に回収予定。
119	漏洩	2	7	9	千葉県	なし	重油脱硫設備内硫黄回収装置付帯設備である出口配管からガス(硫化水素)が漏洩。
120	火災	2	7	12	千葉県	なし	溶接及び切削作業をする油圧設備に附属する電気配線が短絡し、出火、作動油(可燃性液体類)に延焼し、油圧設備の一部を焼損したもの。当日(7月12日)16時45分鎮火。
121	漏洩	2	7	12	和歌山県	なし	アルキレーション装置内の廃硫酸とアルキレートが混在しているタンク(200kl)から比重の重い硫酸が下層部より微量漏えいし、防油堤内に少量溜まった。
122	漏洩	2	7	17	大阪府	なし	一般取扱所(ローリー充填所)にて、移動タンク積込み中、オーバーフローし車両上部のシェルター内に約30Lのガソリンが漏えい。
123	火災	2	7	17	新潟県	なし	製造施設において、配管内のメタクリル酸メチルの抜き取り作業中、静電気により着火したものと推定。消火器により消火し、鎮火。
124	漏洩	2	7	18	愛知県	なし	点検員がタンクの屋根上の点検を行っていたところ、北東側に取り付けられたマンホール付近に溜まった水溜まり上に油面を確認したもの。油は回収済で漏えいは事業所内に溜まっている。漏えい量は調査中。
125	噴出	2	7	22	神奈川県	なし	硫黄回収装置から屋外貯蔵タンク(貯蔵重量:5,368,460kg)へ溶融硫黄を移送する配管(3インチ)が開閉し、保温材の両端から溶融硫黄(モンテルサルファー)が約10リットル噴出したもの。配管の電熱ヒーターを停止し配管内温度を低下させ、配管をブロック処置。その後、公設消防隊がガス検知器で測定するも検知されなかったため処置完了とした。同日7:21処置完了。
126	火災	2	7	22	千葉県	なし	何らかの要因により、押し出し機から押し出されたポリエチレン樹脂が焼損したもの。本日13時45分鎮火。
127	漏洩	2	7	23	神奈川県	なし	製油プラント内の接触改質装置の出口配管から水素ガスが漏洩。(漏洩量は、現在確認中であるが相当量漏洩の様様。)消防の措置により、7月23日13時8分、漏洩防止措置済。現在は漏洩は無い。
128	漏洩	2	7	24	神奈川県	なし	可塑剤製造装置の反応釜配管から危険物(2エチルヘキサノール)が約330リットル漏洩。事業者の措置により、7月25日(土)01時00分、漏洩防止措置済。現在は漏洩は無い。
129	火災	2	7	24	山口県	なし	火力発電所の燃料に使用する石炭を運搬するためのベルトコンベアから出火し、約40m焼損(総延長距離約1.7km)。公設消防、自衛消防組織により、ベルトコンベア周囲に設置された囲いを取り外した後、放水により消火活動を実施。施設外への影響なし。
130	漏洩	2	7	25	神奈川県	なし	棧橋の配管に約2センチメートルの穴が空いており、当該穴から原油が漏洩。(漏洩量は、現在確認中であるが、最大25,000リットルと推定。)7月26日(日)00時27分、棧橋の配管からの漏洩は、穴の空いた配管を処置し、漏洩防止措置済。現在は漏洩は無い。海上への漏洩し、油膜の範囲は不明。事業者により、オイルフェンスを展開し、拡散防止措置を実施。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
131	漏洩	2	7	25	愛知県	なし	1. 事故に至る経過：船からタンクへ危険物(第四類第三石油類:化学名:D-SOL200)を移送中に屋外タンク貯蔵所所属の配管に設備されていたドレンノズルのバルブが開放されており、当該ドレンノズルから漏えいした。ノズルを閉めたことで、漏れは止まった。 2. 事故時の運転状況:約370klを4時間かけて船からタンクへ移送しており、その後ピグ装置により残油を回収している際に漏えいを発見した。 3. 施設等の被害状況:約2000リットル漏えいした。 4. 被害影響範囲・拡大の状況:防油堤内の溝(幅1(m)×高さ0.5(m))5mの範囲に漏えいした。事業所内で止まった。
132	漏洩	2	7	26	兵庫県	重傷1名	作業員2名で一酸化炭素回収設備の転炉ガスドレンタンク液面取替え作業を実施していたところ、ガスが漏えいし1名が一酸化炭素を吸入し意識を消失。まもなく意識は回復し自足歩行に回復、県立加古川医療センターに搬送された(命に別状無し。)
133	漏洩	2	7	28	神奈川県	なし	常圧蒸留装置(蒸留塔)立ち上がり配管から少量のナフサが漏洩したもの。漏洩箇所は、第4蒸留装置における立ち上がり配管におけるピンホールと推定。漏洩箇所の特定にまで至っていないため、引き続き箇所の特定及び原因等の詳細調査中。
134	漏洩	2	7	28	山口県	なし	反応器へ苛性ソーダを送るポンプと配管を繋ぐ部分の損傷により、苛性ソーダ190Lが漏えい。漏えいし苛性ソーダは、施設内に留まり、排水処理設備での水等による希釈・中和作業を完了済み。
135	火災	2	7	30	愛知県	なし	不織布巻取りロールの芯の片方軸受けのベアリング(直径10cm程度)の潤滑油が過熱し出火した模様。従業員2名が消火器2本を使用し消火した。
136	火災	2	7	31	茨城県	なし	屋外タンク(指定可燃物)から出火し、同日7:24鎮火。詳細は調査中。
137	火災	2	8	1	神奈川県	なし	事業所内の倉庫屋上に設置してある分電盤に繋がる電気配線及び合成樹脂製ホース3本がボヤ程度の火災により焼損。消防隊により消火し、同日13:58鎮火。
138	漏洩	2	8	1	山口県	軽傷1名	ストレーナ詰まりが発生したため、他系統に切替えたうえで、軽質油のストレーナ洗浄作業を実施し、洗浄作業確認のため切替後の重質油ライン抜き出しバルブを徐々に開いた(当該ラインが閉塞気味であったため)ところ、当該ライン想定以上の量が流れ、サンプル用ポットに溢れ、周囲に漏えいした。 漏えい量は、25.5L程度で施設外への漏えいはない。
139	漏洩	2	8	3	千葉県	軽症1名	トラックからタンクへ液体苛性ソーダ(25%)を移送作業中、配管から漏れた液体苛性ソーダを作業員1名が頸部と背部に浴びた。罹災者の浴びた液体苛性ソーダの量は不明。(苛性ソーダの漏洩量:約100リットル)
140	火災	2	8	4	神奈川県	軽症1名	ドレンの切り替え作業中に第2常圧蒸留装置から出火。出火の際、作業員1名が右腕に火傷を負った。8月4日10時43分鎮火。
141	火災	2	8	5	和歌山県	なし	ボイラー付属の発電設備において、タービン運転中、タービン軸受け部エア配管から少量のタービン油が噴出。停止後し周辺の油分を清掃除去し運転を再開した直後、軸受け部から出火。
142	漏洩	2	8	6	神奈川県	なし	ボイラー燃料供給配管(タンク付属配管)の圧力計導圧管から、C重油が漏洩。海上漏洩はなし。
143	漏洩	2	8	11	千葉県	なし	塩酸タンク(容量1000m ³ 、残液量約600m ³)にピンホールが生じ、塩酸(漏洩量調査中)が漏洩したもの。同日12:25漏洩停止を確認。河川等への漏洩は無し。
144	漏洩	2	8	12	大阪府	なし	ドライアイス製造機のプレス機の作動油(第4類第4石油類)が約40L漏えいした。漏えいは停止済み。海上への漏えいはなし。当該プレス機プレッシャーゲージのフランジ部分から漏えい。
145	漏洩	2	8	12	神奈川県	なし	特殊重合工場において、混合槽から反応槽へステレン等の混合物(反応液)を送るためのポンプのドレンプラグが脱落し、反応液が漏洩した。8月13日(木)10時30分現在、漏洩防止措置を講じ、漏洩は停止。(漏洩量:調査中)
146	火災	2	8	13	愛知県	なし	コークス炉の釜にコークスの原料となる石炭を装入するための装炭車(レールを走る鉄道のような車両)にて火災が発生。瞬間的に火炎が上がったが、すぐにおさまり、その後は設備を冷却するための消火活動を実施。出火原因は、装炭車の電気設備が機械油(グリス)のいずれかであると推定しているが、特定できていない状況で、今後、消防が現地を確認して原因を特定する予定。なお、火は石炭には移っていないとのこと。
147	漏洩	2	8	14	愛知県	なし	排水処理施設の構内で、構内製造所等からの排水及び含油水等を排水ピットに送る途中の配管から含油水が漏えいした。含油水の成分及び漏えい量は調査中。12時33分に配管開口部に当て板をし、配管からの漏えいが停止。現在は、約5m×4mの範囲を土嚢で囲い拡散を防止しており、海上への漏えいはなし。 なお、当該配管は、数年前から使用しておらず、端部をバルブ等で縁切りして孤立している状態であり、その中の残液が漏えいしたと推定。
148	漏洩	2	8	15	神奈川県	なし	流動接触分解装置の運転スタートアップ時に、タワー上部の安全弁の先の部分において、漏えいが確認されたもの。※漏えい箇所は特定されておらず調査中。災害発生時の運転圧力 0.9MPa 漏えいしたと思われる箇所より若干離れた箇所、ガス検知器での測定をしたが、ガスは検知されていない(8月16日 0時35分時点)。設備の脱圧後、水で満たし、水抜き後、仕切り板による縁切りを行った。
149	漏洩	2	8	16	神奈川県	なし	水添脱硫装置の熱交換器入口ブリーダラインから水素ガスが漏えいした。巡回中に目視で漏えいを発見、プラグが脱落していたためプラグ手前の弁の閉止を確認しようとしたところ弁が固着しており、開閉できなかったとのこと。熱交換器入出弁を閉止し漏えい停止。ガス検知器でLEL 0を確認。
150	火災	2	8	16	神奈川県	なし	施設地下から発煙した。原因調査中だが分電盤が焦げている。
151	漏洩	2	8	16	大阪府	なし	ローリー充填所において、灯油の積み込み作業中に停止装置が作動せずオーバーフローし、車両上部のシェルター内及び地上に約100リットル漏えい。
152	漏洩	2	8	17	神奈川県	なし	屋外タンク貯蔵所の払い出しポンプのサクシオン側からピット内に原油が約1キロリットル漏えいしているもの。10時43分原油の漏えい停止。ピット内の原油をバキュームカーにて回収中。最終の原油漏えい量については調査中。令和2年8月17日(月) 12:35 処置完了

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
153	漏洩	2	8	19	茨城県	なし	構内において、プラント内の配管からノルマルヘキサンが排水ピットへ約2000リットル漏洩したもの。外部流出なし。漏洩停止中。
154	漏洩	2	8	19	山口県	なし	トレンチ内の不使用配管の塗装し直すため、塗装業者がケレン作業を行っていたところ、配管内に残留していた重油が漏洩。当該配管は、漏洩時、仕切板の挿入により縁切りされた状態であった。現在、重油回収作業中で、漏洩停止措置中。応急措置が完了しており、拡大の恐れもなく、海上への漏洩もない。
155	漏洩	2	8	19	大阪府	なし	ローリー充填場において、トリカール(危険物第4類第3石油類非水溶性液体)の積み作業中にオーバーフローし、約30リットル漏洩。
156	火災	2	8	19	山口県	なし	自家発電所、純水検査建屋内の純水純度測定器(推定)から出火し、当該建屋2階部分約14.4平方メートルを焼損したもの。なお、当該測定器は連続式ではなく、サンプリング水を分析するための装置。
157	漏洩	2	8	20	神奈川県	なし	屋外タンク貯蔵所(浮き屋根式、ガソリン容量:20.771KL)のルーフドレンから、ガソリンが約1リットル流出したもの。バルブ閉鎖で流出は停止。流出油は除去済み。
158	火災	2	8	20	愛知県	なし	一般取扱所内にある電気室の分電盤より出火。
159	漏洩	2	8	23	岡山県	なし	巡視点検中に、非常用予備発電装置の軽油タンクのオーバーフロー管から軽油約54Lの漏洩を確認。漏洩は停止。軽油の場外への流出はなし。
160	漏洩	2	8	24	愛知県	なし	危険物(第三石油類非水溶性)を船から屋外タンク貯蔵所への荷下ろし中に屋外タンク貯蔵所の屋根の検尺用ノズル及び通気管から危険物がオーバーフローしたもの。本来、タンク(許可容量:189.6kリットル、事故時の貯蔵量:15.7kリットル)に受け入れる予定だったが、指示書の記載ミスでタンク(許可容量:199.9kリットル、事故時の貯蔵量:99.7kリットル)に受け入れるよう指示が出ていた。現場担当者は、タンクに受け入れるため液面計によりタンクの貯蔵量確認を行ったが、確認が不十分のままタンクに繋がるバルブを開放し受入を開始した。タンクの液面計は、上限警報等があったが、不具合により作動しなかった。(不具合の内容は調査中。)現場作業者は30分に1回巡回してタンク受入量を確認しているが、巡回で確認したときには既に漏洩していた。なお、漏洩量は13.2kリットルで、敷地外への流出はなし。
161	漏洩	2	8	24	大分県	なし	入荷作業で船から屋外タンクへ送油中、配管から油(第4類)が霧状に噴出し海上に漏洩。直ぐに送油を停止し漏洩は止まったが約1tが漏洩した。
162	漏洩	2	8	25	山口県	なし	製造所の白土処理槽において、エアーを送り込んで攪拌する際に、エアー抜きバルブを開けていなかったため内圧が上昇し、当該槽の側面にあるマンホールのガスケットから、潤滑油(第4類第3石油類)と白土(危険物外)の混合物が漏洩した。移送により同日10:05に漏洩は停止した。漏洩量は約100リットルであり、漏洩物は施設内に留まりバキューム車及び吸着マットで回収した。
163	火災	2	8	27	茨城県	なし	圧縮空気製造施設のオートクレーブ内温度が常用温度(150度)に対し、175度まで上昇。安全弁が作動し、系外に煙の発生に伴い、圧縮空気が漏洩した。当該オートクレーブ内は、ススが付着しており、消防により火災であると断定。消防が現地到着時には、鎮火し、確認。(漏洩量:調査中)
164	漏洩	2	8	28	千葉県	なし	硫黄回収装置の燃料ガス配管から燃料ガスが漏洩。(漏洩量:調査中)3インチ配管に5ミリのピンホールを確認。8月28日(金)23時48分漏洩停止措置済み。
165	漏洩	2	8	31	千葉県	なし	廃油ラインから廃油が漏洩。(漏洩量:調査中)8月31日(月)11時50分漏洩停止措置完了。
166	火災	2	9	3	神奈川県	なし	架橋ポリエチレン製造設備の定期修理中に、フィルターから出火し、従業員が消火器により消火したもの。同日10:51消防処置完了。
167	火災	2	9	4	千葉県	なし	塗装作業員が異臭を感じ周囲を確認したところ、重油を受入貯蔵する施設(#808)下部から、幅約50センチメートル、高さ約30センチメートルの炎が出ているのを発見したもの。同日9:30に鎮火。
168	漏洩	2	9	7	鹿児島県	なし	台風10号の通過後、タンク点検を行ったところ、タンクの浮き屋根の上に漏油を発見。敷地内、海上への流出無し。右記屋根接合部の亀裂を応急措置して油漏洩は停止。事業所は自衛防災体制で、清掃作業を行い本日に完了の予定。
169	漏洩	2	9	9	千葉県	なし	純水製造装置の塩酸タンクから、約5m3の塩酸が漏洩したもの。同日16:10漏洩停止。
170	漏洩	2	9	11	神奈川県	なし	屋外タンク貯蔵所付近で、埋設配管から地中に原油がしみ出たもの。しみにあっては50mL程度。9月11日7:38使用制限命令発動。9月12日10:50水置換完了・消防処理完了。
171	漏洩	2	9	11	神奈川県	なし	屋外タンク貯蔵所付属配管から重油材が流出したもの。同日11:00漏洩停止(漏洩量にあっては調査中)
172	漏洩	2	9	12	千葉県	なし	ブタジエン抽出施設の熱交換器配管のフランジ部からアセトニトリル、ジメチルシリコンオイルが漏洩。(漏洩量:調査中【5リットル程度】)9月12日(土)漏洩停止措置完了。
173	漏洩	2	9	13	千葉県	なし	付帯配管からガソリンが漏洩。(漏洩量:調査中)9月13日(日)18時20分漏洩停止措置完了。
174	漏洩	2	9	17	広島県	なし	塩酸タンクから払出し配管内で漏洩。防液堤内に約950L漏洩したが、防液堤内に留まっている。手動バルブにて閉鎖し、漏洩は停止しており、漏洩した防液堤内の塩酸も回収済み。
175	火災	2	9	17	神奈川県	なし	工事中の建屋から出火し、壁の一部及び雑物を若干焼損したもの。9月17日(木)16時35分鎮火。
176	漏洩	2	9	18	広島県	なし	屋外タンクの付属配管の継ぎ手部から水酸化ナトリウム約33リットルが漏洩した。配管の元弁を閉操作し、00:08に漏洩は停止。漏洩は防液堤内に留まっており、場外への流出はない。
177	火災	2	9	25	愛知県	なし	プレス機を稼働中、異常が発生したため停止したところ、当該プレス機内から出火し焼損したもの。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
178	漏洩	2	9	27	山口県	なし	中空系膜ノズル交換作業中、洗浄水バルブを開けるところを誤ってN-メチル-2-ピロリドンのバルブを開けたため、排水ラインに流出した。流出量は、約100Lであり、全て排水処理槽に留まっており、外部への漏えいはなし。
179	火災	2	9	27	愛知県	なし	合金工場内において、アーク炉から高温の溶湯を別の容器に移す工程で、通常時よりアーク炉を傾け過ぎたため、容器から流れ出した溶湯が地下ピットに流れ落ち、地下ピットの電気ケーブルが焼損した。
180	漏洩	2	9	28	神奈川県	なし	形成工場において、ガラスを溶解する溶解炉の燃料用配管から重油が漏洩し、海上に約5リットルの重油が5m×10mの範囲で流出した。漏洩防止措置実施。オイルフェンス展開中。本日12時、海上に漏洩した重油を回収し、海上保安庁立ち会いのもと拡散を実施。
181	漏洩	2	9	28	神奈川県	なし	特定屋外タンク貯蔵所タンク(原油処理能力42,930KL/日)の付属配管下部にピンホールくらいの穴が開き、防油堤内にナフサ約30リットルが流出した。同日18:54公設消防入構。同日19:07バキューム車による油回収開始。同日19:30現在漏洩している保温配管のバルブを閉め、縁切りを実施し、漏洩停止。公設消防車両3台10人出場。同日19:39公設消防出講。同日20:15排水溝及び周辺の漏洩油をバキューム吸引済。同20:15処理完了。
182	漏洩	2	9	29	山口県	なし	セメントクリンカー破碎用ミルの主電動機軸受け用潤滑油のホースから、潤滑油(危険物第4類第4石油類)が15リットル程度漏えいしているのをパトロール中の従業員が発見した。主電動機停止により漏えいは停止し、施設外の漏出もない。漏えいした潤滑油は、従業員が吸着マットにより回収した。(10:30完了)